



青森河川国道ニュース

馬淵川放水路が土木遺産に認定



馬淵川の治水と
八戸市の発展の礎

馬淵川放水路（まべちがわほうすいろ）は「多くの水害の原因となっていた大きく湾曲した河口部を改善し、北東北有数の産業都市である八戸市の発展の礎となった貴重な土木遺産」として令和2年9月18日に土木学会の選奨土木遺産に認定されました。

馬淵川と隣接する新井田川は、それぞれが直接太平洋に注ぐ河川でしたが、馬淵川河口の沖合に漂砂による前浜が発達し、河口閉塞を繰り返すうちに、新井田川と河口付近で合流し太平洋に注ぐようになりました。

馬淵川と新井田川が合流した河口部は、両川の洪水流が押し合うことから、洪水の常襲地帯となっていました。

そこで新たに馬淵川放水路を開削した結果、河口付近の馬淵川と新井田川の三角地帯は洪水常襲地帯から解消され、八戸臨海工業地域として八戸市発展の基礎となりました。【竣工1950年（昭和25年）】

一般の認定を受け、「馬淵川放水路」の歴史的役割を多くの方々に理解・関心を寄せていただくことにより、馬淵川に対する愛護意識の醸成が図られることに期待しています。

Q：土木遺産（土木学会選奨土木遺産）とは？

土木学会において、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年に認定制度を設立しており、推薦および一般公募により、年間20件程選出しているものです。（土木学会HP）



昭和25年 馬淵川放水路の工事状況

記者発表資料はこちらをクリック